

和歌山 人・もの・地域

和

n a g o m i

Vol.55
2024

和歌山百景

- ・和歌山ゾーン構築総合ディレクターが語る
和歌山の魅力と大阪・関西万博
- ・和歌山百景、高野山と熊野の精神性
- ・和歌山百景、を築く文化と伝統技術
- ・和歌山県の未来を探る

知事対談 竹中ナミ×宮崎美侑×岸本周平

聖地リゾート!和歌山 [光泉寺の大銀杏]

Wakayama 移住定住ヒストリー

well-being 和歌山 [ワカヤマソウリュウ]

プレミアム和歌山 [JAPANESE CRAFT LIQUEUR くまの]

わかやま食の新発見 [なんたん蜜姫]

和歌山百景

紀伊山地を中心とした自然豊かな地域、和歌山。
日本でも有数の降水量が、豊かで深い森林を育んだ。

ふと立ち止まり振り向いた瞬間、
多様な魅力にあふれる世界に出会える。
そこは神々が鎮まる特別な場所、寛容なる聖地。

自然と文化と歴史、そして人々が、
その本質を損なうことなく共存し、
上質な時間が流れる霊性の大地となる。

そして今、伝統・文化・精神性、
そのすべてが未来へと受け継がれていく。

万博で展示される「利他の蓮華」の発想の元になった六角経蔵。基壇付近には把手がついており、この部分を一回転させることで一切経を一通り読誦した功德を得るといわれている。



万博コンテンツの一つ、紀州東照宮。毎年5月に行われる白装束の男たちが神輿を担ぎ108段もの石段を駆け下りる和歌祭も有名。

東京大学・先端科学技術研究センター特任准教授に就任することになり、約10年ぶりに日本に帰国したという吉本さん。「プロとしてふるさとに関わる使命を与えられたことは、非常に光栄です」と話す。

吉本英樹 ● 1985年和歌山県生まれ。2010年東京大学修士課程（航空宇宙工学）・2016年英ロイヤル・カレッジ・オブ・アート博士課程（デザイン工学）を修了。2015年にロンドンにてデザインスタジオ「Tangent」を設立。日本の伝統工芸と先端技術を繋ぐ国際的なイニシアティブ「Craft x Tech」を創立し、日本文化の進化・継承にも取り組む。

航空宇宙工学×アート 世界で活躍するデザイナー

来年開催される「大阪・関西万博」。関西パビリオン内にある和歌山ゾーンの総合ディレクターを務めるのは、世界的に活躍するデザイナー・吉本英樹さんだ。

和歌山市生まれの吉本さんは、東京大学工学部へ進学し、航空宇宙工学を学ぶ。「航空工学の中でも人工知能やコンピュータに関する研究をしていましたが、空や航空機に憧れがあり、それらが社会や人にどんな役割を持つのかを考えるようになりました。当時、周囲の影響もありアートの分野にも惹かれていくのですが、技術そのものよりも、技術と社会の接点に強い関心を持ち、それを扱うデザイナーの領域に傾倒していきました」と話す。大学院卒業後は渡英し、名門美術大学で博士号を取得。現地で活動していたが、2020年に東京大学・先端科学技術研究センター特任准教授への着任をきっかけに日本へ拠点を戻し、和歌山ゾーンの構築を手掛けている。

和歌山の多彩な文化を 新たな形で表現

和歌山ゾーンのテーマは「和歌山百景―靈性の大地―」。高野山や熊野に代表されるような、人知を超えた自然への信仰が今も生きる「和歌山のスピリチュアリティ」は特別なものであり、それは根底を貫くテーマとなり「上質」のつまった和歌山を表現する。

「内容が同じでも、見方や見せ方を変えると全く違う形になります。和歌山百景は大地の形成や自然の風景だけでなく、ここに暮らす人々の姿、伝統文化や産業など、和歌山を構成する過去、現在、あるいは未来のさまざまな要素を表現します。和歌山を離れていたからこそ見える素晴らしい景色を、世界最高のレベルで見せることにチャレンジしたい」と吉本さんは話す。

紀伊山地の巨木を彷彿させるような映像タワー「トートテム」には「シアター」では表現できない見せ方が詰まっている。多様な風景が投影される8体のトートテムが、

会場全体をひとつに包み込み、県内各地の職人やアーティストによって生み出される家具やアート作品と共に、空間を演出する。

トートテムには紀州塗りを施し、展示什器には紀州高野組子細工、食を提供するカウンターバーには紀州材の焼杉を採用するなど、細部にわたる和歌山の想いや技術が込められている。他にも、和歌山の歴史や伝統を象徴するステージコンテンツやフードコンテンツなどが組み込まれる予定。

「将来的に伸びていくであろう日本の観光産業。和歌山が持つ自然や歴史、文化などの多様な資源は、東京やロンドン、ニューヨークにも引けを取らないと思っっています。万博は、それらを国内外に向けてPRするため、新しい見せ方にチャレンジできる良い機会。和歌山のいろんな方々が、それぞれのプロフェッションを追求・貢献して圧倒的なクオリティで出来上がった和歌山ゾーンが、関西パビリオンの中でも訪れる人の予想を裏切るような特別なものになれば」と吉本さんは語る。

和歌山には、美しい景観と千年以上積み重ねてきた上質な歴史文化と精神性がある。



絶景と上質な歴史が融合した紀州東照宮の境内



大阪・関西万博 関西パビリオン内 和歌山ゾーン イメージ図

高さ約4m、和歌山各地の風景や歴史をアートとして映し出す、8体のトートテムに取り囲まれるように設置された中央ステージでは、祭り、世界遺産、伝統芸能など、「和歌山の今を生きる人」に焦点をあてた多様なパフォーマンスや展示が行われる。また、紀州材の焼杉を使用したカウンターバーでは、加藤峰子氏が監修した季節を感じられる和菓子を中心としたメニューが提供され、県内の桐箆箆職人と共に創り上げた特別な器から提供されるメニューは、「食のアート」も体験できる逸品である。





①壇上伽藍にある根本大塔。②万博で展示される「利他の蓮華」。実際には直径2m程の大きさのものを高野紙で作り上げ、地域の子どもたちの夢などが描かれた作品になる予定。

高野山大学
住所／高野町高野山385
電話／0736-56-2921



マンダラプロジェクト

なぜ空海は、高野山に修禪の道場を開いたのだろうか？「澄み渡った空、樹々生い茂る山々など、自然が素晴らしいからだと思います。そもそも密教にとって大切なのは、あらゆるものに価値があると気付くこと。それは、自分以外の人のために役に立ちたいという「利他の心」に達することともいえます。自分の思いや見方を「我執」といいますが、我執を捨て自然と一体化するように「瑜伽」という瞑想を積み重ねると、あらゆるものに目には見えない関係性があると認識します。高野山や熊野は波動が良かったため、感性を磨く場所に適していたのではないのでしょうか」と高野山大学副学長の松長潤慶さんは語る。

できるものが限界に達したとき、東京大学の先生たちがその答えのひとつを高野山に求めにきたという。「それから「マンダラプロジェクト」が始まりました。密教の教えに導くものの中に「曼荼羅」がありますが、万博では新たに、日本の文化や先端科学を融合した体験型の展示物「利他の蓮華」を東大と共同で制作しています。壇上伽藍にある六角経蔵の法輪をイメージさせるように、万博会場の人々がオブジェを協力し回すことで、蓮華がひらく仕組みになっています。これは、人々の参加、参画という行動により新たに何かが生まれることを意味しており、密教の教えである「人は一人で生きていくのではない」ということを示唆するものです。万博では、和歌山の精神性を世界に発信できればと思います」。

あらゆるものに価値を認め 感性を磨くための聖なる地



複合的な立体曼荼羅で構成されている根本大塔内部

大阪・関西万博 和歌山ゾーン

和歌山百景、高野山と熊野の精神性

受け継がれる寛容の精神 千年続く絆を体感したい



田辺市中辺路にある高原熊野神社。実際には伐採を免れたが、熊楠は神社台座の際、御神木であるクスノキが伐採されることを聞き、大いに悲しんだと言われる。



①継根王子跡。鳥居の背後にある一方杉は、熊楠が伐採から守った。②(一社)田辺市熊野ツーリズムビューローの観光案内所。外国語のガイドブックも多数用意されている。

(一社)田辺市熊野ツーリズムビューロー
住所／田辺市湊1-20
電話／0739-26-9025



「二見するとありふれた山々。それでも奇跡の積み重ねがあって、千年以上もの間、熊野古道は信仰の道として残ってきました」と語るのは、(一社)田辺市熊野ツーリズムビューロー会長の多田稔子さん。「熊野では、善か悪かといった二者択一ではなく、自然崇拜に根ざした神道や仏教など様々な信仰を取り込み混沌としつつも、多様なものがこれまで共栄してきました。誰でも受け入れる寛容の精神は地域のDNAとして受け継がれているからこそ、今も世界中からたくさんの人々を迎えているのだと思います」。

しかし、現在まで熊野古道が信仰の道として残ってきたのは、受動的な要因だけではない。「使わなければ、すぐ自然に戻ってしまう山道ですが、熊野の人々は長い間、生活道や林道として熊野古道を使い、守り続けてきました。また、世界的な博物学者・南方熊楠は明治の神社社会政策などに伴う森林伐採に反対し、熊野の自然を喪失の危機から救いました。これまで良い意味で開発されず、恵まれたこの自然を残すことができたのは、いくつもの奇跡が重なり、その時々で守り続けられた人々がいたからです」と語る。

長い歴史で培われた文化や想いを次の千年へ繋げる新たな取り組みも始まっている。熊野に住む人々にとって山々に囲まれていることは日常ですが、こどもの頃は自分事になっていました。地元小中学生を対象にした森林環境学習により、山に対する興味や熊野古道の保全意識に繋がればと期待しています。訪れた際には、この空気感、魅力を感じてもらいたいですね」と語った。熊野古道絵巻行列など、万博での多様な演出にも注目したい。

祈りでもある絵とき説法
【絵巻物「道成寺縁起」】



和歌山県に現存する最古の寺院といわれる道成寺。道成寺の代名詞ともいえるのが、安珍清姫の悲恋物語の絵とき説法だ。驚くことに500年前から途切れることなく続けられ、今では年間2000回以上も行われている。「文字が読めない時代に、物語を伝えるツールだった絵巻物。長年使われ引退した絵巻の写本が8組もあり、当寺の大黒柱だと思っています。テレビなどがない時代、人々にとって絵とき説法は最高のエンターテインメントだったでしょう。奈良や京都の都から、牟婁の湯（白浜温泉）や熊野三山、西国三十三所巡りのため多くの旅人が立ち寄られたので、絵巻物は道成寺院主の小野俊成さん。

実は、絵巻にはもう一つ意味があるという。「熊野権現が安珍に、観音様が清姫に姿を変えた」と絵巻に書かれていて、絵とき説法は『聴衆に神様と仏様のご加護があるように』という祈りでもあります」とも語る。「県の依頼で万博で数回、日本語版・英語版の絵とき説法をしますので、多くの方にお願いしたいだけだと思います」。

道成寺
住所／日高川町鐘巻1738
電話／0738-22-0543



「15年前、視覚に障害がある方にも博物館を訪れ、文化財を手にとって感じてもらいたい」と新たな試みを始めました。県立和歌山工業高等学校の協力のもと、3Dプリンターを用いて文化財の造形を行った後、和歌山大学の学生さんに着色を手伝ってもらい生まれたのが「さわられるレプリカです」と説明してくれたのは、和歌山県立博物館の学芸課長、坂本亮太さん。ちょうどその頃、県内各地の集落で、無人の寺社や祠に安置されていた仏像の盗難被害が多発。幾世代にもわたり祈りを捧げてきた住民が不安に思い、博物館での保管を依頼。とはいえ、地元にも何もないのも寂しい。それならば、2012年以降、実物は博物館で安全に保管し、複製したさわられるレプリカを「お身代わり仏像」として地域に奉納することで、文化財保護と信仰の継承の両立を目指したのだという。

和歌山県立博物館
住所／和歌山市吹上1-4-14
電話／073-436-8670



地域の歴史や記憶をともし守る
【お身代わり仏像】



大阪・関西万博 和歌山ゾーン

和歌山百景、を築く文化と伝統技術

技術の継承が文化を守る
【紀州漆器】



日本三大漆器の一つである紀州漆器。僧侶たちが寺で使用する膳や椀などの根来塗が大きな影響を与えたといわれ、江戸時代以降は庶民の日用品として親しまれてきた。

「長く使うことで、表面の朱塗りの所々から下塗りの黒漆が現れ、それが朱と黒の文様となるなど、この製造工程ならではの趣が感じられます。段々しっとりとした感触になっていくのも魅力です」と語るのは田倉漆芸代表取締役の田倉裕聖さん。また、「漆器に絵をつけたり、加飾として糸

田倉漆芸株式会社
住所／海南市岡田276
電話／073-482-1401



組子細工とは、釘を使わず、細かく割った木を手作業で組み立て、幾何学模様を編み出す日本独自の装飾技法のことで、民家の建具などに使われてきた。江戸時代、高野山の寺院復興のために組子職人が京都から招かれたことから、高野山麓で高野六木を使った「紀州高野組子細工」が育まれたという。

池田清吉建具
住所／橋本市東家2-3-22
電話／0736-32-0927



技を磨き 美術価値の向上へ
【紀州高野組子細工】



80年の歴史に感謝、そして今後の取り組み。 和歌山県を脱炭素先進県に

【未来環境供給基地】 ENEOS株式会社和歌山製造所
住所/有田市初島町浜1000 電話/0737-85-1010



右/ENEOS和歌山製造所技術・製油副所長の木田高史さん。左/事務副所長の伊藤和弘さん。ENEOS和歌山製造所は、2023年にENEOS和歌山製造所に生まれ変わった。

ENEOS和歌山製油所の石油精製機能の停止は和歌山県に大きなインパクトを与えた。しかし、そのピンチをチャンスに変えようと官民挙げたプロジェクトが始まっている。「石油製品の需要減少や脱炭素の機運もあり、当社も苦渋の選択をしましたが、県や市などと連携し、未来環境供給基地」を目指し、SAF(持続可能な航空燃料)などの次世代エネルギーの供給に取り組んでいます」と語るのは同所副所長の木田高史さん。「当所は家庭や企業から生じる廃食用油でSAFを製造す

る予定です。コスト面での課題もありますが、新技術の開発により生産量が増え、サプライチェーンが広がればコストダウンにもつながるでしょう。今始めなければ未来は何も変わりません」。脱炭素の潮流に沿った意識改革は企業・個人問わず求められており、同所もカーボンニュートラル社会の実現に向けて挑戦している。

SAF製造に向け準備を進める同所は、共に歩んできた地域に対して「皆さんと環境問題についても考えていきたい。また、GXのモデル地区を目指し、元製油所の



広大な敷地に資源循環を意識した企業誘致ができれば、雇用機会が増え、地元の活性化につながるのではないかと考えています」と語った。

官民力を合わせ、天ぷら油で飛行機を飛ばそう!

【家庭用使用済み天ぷら油回収実証事業】

和歌山県成長産業推進課
住所/和歌山市小松原通1-1 電話/073-441-2355



県民の資源循環に対する意識向上と、SAFにも関連する事業として和歌山県が実施する「家庭用使用済み天ぷら油回収実証事業」。登録したモニターが繰り返し使える専用ボトルに家庭から出る廃食用油を溜め、スーパーなどの回収拠点に持参する。今年7月の実証開始後、順調にボトルが集まっており、県民の環境問題への関心の高さが窺える。この実証事業は2025年度末まで継続され、今後は実地地域の拡大や採算性の検討を行い、実証終了後は、CO₂削減効果の高い燃料等へと活用する民間事業者の自主事業として定着させたい考えだ。



回収するのは、家庭から出る植物性食用油のみ。モニター登録者数は2067名。(R6.10月末時点)

糸屋は紙に詳しくなく、紙屋は糸に詳しくない だからこそ生まれた牛乳パックの紙糸とは?

【REPAC®】株式会社島精機製作所
住所/和歌山市坂田85 電話/073-471-0511



ReMateriおよびREPACは株式会社島精機製作所の登録商標です。



右/紙糸を持つ岩崎伸哉さんと、左/ReMateri®プロジェクトの同僚、高橋佳奈子さん。使い心地の良さからタオルなどはホテルからの大量オーダーもあるという。

世界的コンピュータ横編織メーカーである(株)島精機製作所の社内ベンチャー企画から生まれたサステナブル素材事業「ReMateri®」。環境問題を考慮し、アパレル業界において再生紙を活用した糸の開発は注目されていましたが、新聞やダンボールだと強度がないという課題がありました。そこで着目したのが牛乳パックです。牛乳パックは表面のラミネートをとると中の紙は高品質で強度があることが分かりました。異なる分野の糸屋さんと紙屋

さんを結びつけ開発されたのが「REPAC®」という紙糸です」と語るのはプロジェクトを管理する岩崎伸哉さん。

牛乳パックから抄いた紙を細長くカットし燃糸されることでできる糸はサラツとしていて、吸水性や消臭性にも優れている。また「REPAC®」1kgの製造あたり約234gのCO₂排出量削減にも貢献しているという。「糸としての販売はもちろん、自社で開発した靴下やタオルなども販売しています」。同社の取り組みはアパレル業界における環境問題解決への大きな一歩となりつつある。

廃棄予定の傘を再利用、 環境にも人にも優しいAEDシート

【AEDハートフルシート】

和歌山県立熊野高等学校Kumanoサポーターズリーダー
住所/上富田町朝来670 電話/0739-47-1004



AEDシートの存在をどれほどの人が知っているだろうか? 「心肺蘇生が必要な緊急事態において、女性へのAED使用率は平均より低いといわれています。プライバシー保護の観点から開発したのが、AEDハートフルシートです」と熊野高等学校教諭の上村桂さん。2011年の紀伊半島大水害で仲間が亡くなったことを機に、上村さんが顧問を務めるKumanoサポーターズリーダーでは命の大切さを考えるようになった。地元消防署やAED販売業者にも協力を仰ぎ1年後に開発された



Kumanoサポーターズリーダーの皆さん。傘の生地をはず取り、ミシンで縫い合わせて1枚のシートに仕上げる。生徒たちは生地を組み合わせを楽しそうに選ぶ。

が、無償提供するにはコストがかかりすぎた。そこでJR西日本の置き忘れの傘に着目し、リサイクルにも寄与しながら原価を抑えることに成功。「学生自ら何度も消防署に出向き、心臓マッサージの位置やAEDパッドを貼る位置をワッペンで示すなどヒアリングと試行錯誤を繰り返して、完成品ができました。現在も授業と部活動で製作し、県南部だけで300を超える施設に、最近では天王寺駅や大阪駅などへも配布しています。AEDシートの輪をもっと広げていければと思っています」。

岸本知事(以下岸本) ●今日は社会福祉法人プロップ・ステーションの理事長であるナミねえこと竹中ナミさんに、福祉を中心に色んなお話を聞きたいと思います。ナミねえと出会ったのは、30年ほど前のことですが、35年ほど前から、チャレンジドを納税者にする。という活動をされています。そもそもその活動のきっかけは何だったんでしょうか。

竹中ナミ(以下竹中) ●私の娘は今、51歳ですが、生まれつき脳の障害が重く、今もまだBabyという感じなんです。でも世の中を見てみると、障害があっても色んな事をやりたいという人が沢山います。しかしそんな人たちが「かわいそうな存在」とか「気の毒な存在」と捉え「税金で面倒を見なければならぬ人だ」というように決め付けているのが、すごくもったいないと思いました。だから私は、障害があっても色んな事をやりたいと思ってる人たちの力を活かすことができれば、娘のような存在もみんなを守ってもらえる社会になるのではと考えました。その時に自分なりのキーワードを探すために色んな本を読んでいたら「国家があなたのために何ができるかではなく、あなたが国家のために何ができるのか」というアメリカのケネディ大統領の就任演説を読む機会がありました。その中に「自分は全ての障害のあるアメリカ人をタックスペイヤー(納税者)にし

障害者を納税者に。失敗を恐れず挑戦する心

「障害者を納税者に」とは、チャレンジドの権利を認めることである。日本においてそれは、センセーショナルな考え方であった。その考えに呼応し1人の若いチャレンジドが、難関の一等無人航空機操縦士に見事合格。できない理由を探すのではなく、まず挑戦してみようという信念に本当の強さを感じた。

の中を変えていくんですね。世の中を変えられるということを目の前で見ているのは役人なんてやってる場合じゃないと思ひ、政治家を目指すことになりました。

神様が挑戦する権利を与えてくれたチャレンジド

岸本 ●私が経産省に出席していた時のことです。脳性麻痺の若い人たちが2、3人でとても良いソフトを開発したんですね。その現場を視察に行ったのですが、彼らはとても明るく非常にたくましく、まさしくチャレンジドなんです。そもそもチャレンジドという言葉もナミねえに教えてもらったのですが、障害のある人たちは健常者よりも生活そのものが挑戦である。それは神様が挑戦する権利を与えてくれているんだ。だからチャレンジドというんですが、今はもう日本でもかなり定着してきています。仮に健常者がいたとして、努力をすると昨日できなかったことが今日できる。今日理解できなかったことが明日だと理解できる。そんな風に考えると挑戦するという意味は誰にも一緒。だから結局みんながチャレンジドだと思えます。これもすごくいい言葉だと思いました。また一度、ワシントンのペンタゴンへ視察に行きましたよ。そこでも感動しましたね。

竹中 ●アメリカのペンタゴンに、就労支援の最先端の部署があるということに

びっくりしましたね。

岸本 ●傷痍軍人のために恩給や年金といった手当ではなくて、チャレンジドすることに対して色んな手伝いをする。そういうのをペンタゴンの予算で行うんですね。しかもその時の担当者が電動車椅子に乗った女性でした。

竹中 ●彼女は頸椎損傷し全身麻痺になりながらもリーダーとして活躍し、ペンタゴンを変えた7人のうちの1人と言われています。

岸本 ●ペンタゴンとは国防総省ですから、そのチャレンジドに対する予算は軍事費なんです。不思議に思っただけで、障害のある人が目を輝かせて喜んで生きてる国を誰も攻めてきませんよ。よって言っていました。その後実際に私は国会議員となり、障害者と児童養護の政策をライフワークにやってきました



知事対談

竹中ナミ×宮崎美侑×岸本周平

竹中ナミ

1948年兵庫県神戸市生まれ。社会福祉法人プロップ・ステーション理事長、一般社団法人ユニバーサルドローン協会事務局長。2023年から和歌山未来創造プラットフォームメンバー。

が、そのきっかけを作ってくれたのが、ナミねえでした。そして和歌山県の知事となり、未来創造ネットワークというプラットフォームを作り、ナミねえにもメンバーになってもらっています。また最近、ナミねえはICTだけでなくドローンにも深く関わるようになってきました。何かきっかけがあったのでしょうか。

竹中 ●チャレンジドにとってICTの次に何が必要だろうかと考えていた時、見つけたのがドローンでした。チャレンジドがドローンのプロになり、社会を支えるような時代が間違いなく来るだろう。それを学べる場所を作ろうと思ったのですが、私には教える技術はありません。ICTの時はマイクロソフトのビル・ゲイツさんに仲間入りしてもらったように、すごい人を引っ張ってくるのが私の役割。そして出会ったのが一般社団法人国際ドローン協会の榎本幸太郎さんでした。2019年には神戸にユニバーサルドローン協会を設立したのですが、榎本さんは講習のために毎月自費で東京から神戸まで、ボランティアでドローンを教えに来てくれました。

岸本 ●ここからはドローンについても聞いていきたいので、一等無人航空機操縦士というドローン国家資格を取得した宮崎美侑ちゃんにも話に加わってもらいたいと思います。



知事対談

竹中ナミ×宮崎美侑×岸本周平



2024年世界パラ陸上競技選手権大会の空撮で授与された感謝状と(右)知事、(中)宮崎さん、(左)竹中さん。

だき、自分でも操縦してみました。障害者の就労支援や災害対応をはじめとする活用に可能性を感じました。また、美侑ちゃんには和歌山県の特別支援学校に教えに来ていただきましたが、その時の子どもたちの目の輝きが印象的で、先生たちもこんなにみんなが楽しそうにやっているのを見るのは初めてだと言っていました。美侑ちゃんは教えることが好きですか。

宮崎●結構好きで、インストラクターの資格にも挑戦したいと思っています。

竹中●美侑ちゃんには後進を指導するような役割をお願いしたいですね。教え方も上手だし、教えるのも好きだね。でも感覚的なものはどう教えるのですか。

宮崎●感覚を伝えるのってすごく難しいんですけど、自分なりの工夫をして伝え、教えた方が上手になるのはすごく嬉しいです。やっぱり手と足では感覚が違うので、繊細な動きをどれだけ掴めるかを教えるのが一番難しいですが、やりがいがあるかなと思います。

和歌山にチャレンジドのドローン学校を作る

岸本●実は今、チャレンジドの皆さんにドローンの操縦を教える学校を和歌山県内に誘致したいと思いい、ナミねえには場所探しをしていただいています。

竹中●和歌山県という土地柄、農業や林



宮崎美侑

一般社団法人ユニバーサルドローン協会所属のパイロット。16歳で一等無人航空機操縦士の国家資格を取得した。



写真は小型のドローン。宮崎さんは空港付近や夜間、人口集中地区上空を25kg以上の大型ドローンで目視外飛行などができる。

業などにもドローンが非常に役立つと思っています。

岸本●さらに防災の観点からも必要性を感じています。能登半島地震では多くの孤立集落ができました。道も閉ざされているような大混乱の中、いち早く現場の状況をドローンで確認、場合によっては大きなドローンで物資を運ぶことができます。非常に有効な道具だと思います。

竹中●テーブルの上に置いているのは、小型ドローンですが、実際に美侑ちゃんが足で操縦できるのはこのテーブルぐらいの大きさのものです。

宮崎●実際にそんな大型のドローンで被災地に物を運んだりもしたそうです。

岸本●県庁内の職員も23人、一等無人航空機操縦士の資格を取得していますが、和歌山県に学校ができれば、美侑ちゃんには教えにきてもらいたいし、災害など

岸本●それでは宮崎美侑ちゃんにお願いいただきました。お久しぶりです。

宮崎美侑(以下宮崎)●お久しぶりです。

竹中●美侑ちゃんは中学一年生の頃からプロップ・ステーションのパソコンスクールに通っていました。生まれつき両腕が欠損しているのでパソコンの操作をするのですが、すごく優秀だったんですね。そんな美侑ちゃんを見て、彼女だったら絶対に上手くドローンも飛ばせるようになると思います。そしてすぐにドローンの勉強を始めるようになるのですが、グングンと技術や知識を吸収し、2023年には一等無人航空機操縦士の国家資格を取得しました。当時その資格は全ドローン人口の内、たった100人しかいなく、16歳での取得は最年少記録でした。

岸本●今後、ドローンの操縦も運転免許証のようになると思いますが、試験は難しく合格まで大変だったでしょう。

宮崎●千葉県にある榎本さんのドローン学校の合宿に参加し、その後試験に挑戦しました。最初は実地試験だったんですけど、風速が規定ギリギリの中で飛ばしたので、本当に合格するかもドキドキしていました。次に学科試験なのですが、9割以上正解しなければならず、2ヶ月ぐらい勉強しました。

岸本●9割とは難しいですね。私も千葉県にあるドローンパークに行かせていたことがあったら助けにきてください。またこの感謝状はどうしました？

竹中●2024年5月、神戸で世界パラ陸上競技選手権大会が行われましたが、その開会式の模様を空撮してほしいと依頼があり、美侑ちゃんが撮影を担当したのです。これはその時の感謝状なんです。ポール・フィッツジェラルド代表も美侑ちゃんのことを気に入っちゃって、1時間ほど話していました。もう「世界の宮崎美侑」になりました。

岸本●美侑ちゃんのように自分の好きなことを見つけ、それを伸ばしていくということは大切だと思いますが、美侑ちゃんから中学生や小学生、またチャレンジドの皆さんに何かメッセージがあればお願いします。

宮崎●自分が好きなことを見つけ、それをとことんやるというのが良いと思います。私は色んなことに挑戦することが好きですが、本当に好きだったら失敗することもある。後からみたら経験になったり、楽しかったという記憶になったりするので、失敗を恐れずに続けるべきだと思います。

岸本●私も失敗してもいいから前例にとらわれずに挑戦しようというも職員の皆さんに伝えていきます。今日はありがとうございました。



光泉寺の 大銀杏

古座川町三尾川、光泉寺の境内に鎮座するのは、高さ約30m、推定樹齢400年と言われる大銀杏。堂々とした太い枝から垂れ下がっているのは「気根」という根の一種。その姿が乳房を想像させ、願掛けをすると、こどもを授かるという言い伝えがあることから、子授け銀杏と呼ばれている。春や夏には豊かな緑で太陽の光を和らげ、秋には木の葉が黄金色の絨毯を作り、その絶景を目当てに多くの人を訪れる。



①「もうすぐ細川八坂神社近くに、新しい活動拠点を開く予定です」と津田さん。②毎月第一日曜日には高野山観光情報センターで紙漉きのワークショップを行っている。③和紙づくりを行う仲間たち。「集まってワイワイとおしゃべりするの楽しみです」④細川八坂神社の「七夕まつり」には、30軒ほどの集落である細川地区に、県内外から200人もの人が集まった。⑤エディブルフラワーとしても人気の「しろあおい」を自家栽培。根の部分は、繊維を撚拌(かくはん)するネリという役割で、和紙作りには欠かせない原料だ。

高野紙が できるまで

①和紙の原料「楮」を収穫し、長さを揃え束ねて大釜で蒸す。楮の質により仕上がりの色や質感が変化する。②黒皮を剥き、白皮の部分を残し木炭やソウダ灰で煮たもの。叩いて紙料に仕上げていく。③ネリと共に漉き舟に入れる。水に溶かしながら縦横に揺らし、厚さを均等に。天日に干し乾くと完成だ。④和紙として利用するだけでなく、うちわやリース、真田紐を使ったサコッシュといった流行のアイテムも展開。



「地元で作った原料で和紙を作り、時代にあった製品を作ること、技術の継承と集落の活性化に繋げたい」と津田さん。

高野山を支える 麓の人々の営み 歴史と文化を繋ぐ高野町



空海が開いた真言密教の聖地・高野山を有する高野町。117もの寺院が立ち並び、国内外から観光や祈りを捧げに多くの人々が訪れる。高野紙十郷のひとつ、西細川地区にある細川八坂神社では、毎年8月16日に「傘鉾祭」が行われ、南北朝～室町時代に作られたとされる鬼面を被り、参拝者をお誂いし無病息災や五穀豊穡を祈る神事が継承されている。
※2024年3月、傘鉾祭の関連用具が県の指定文化財に指定。

●西細川地域おこし協力隊
●住所/高野町細川893
●電話/0736-20-9010

然と和紙作りのコミュニティができた。「高野紙の伝承だけではなく、この集落を存続させて皆がここに住むことを誇りに思えるようにしたい」という思いを募らせ、2022年には細川八坂神社で「和紙あかり」というイベントを開催。訪れた人の願いごとなどが書かれた約700個の行燈が境内を埋め尽くした。「時代に合った商品を作り販路を広げ、高野紙を未来へと繋げていきたい。そして、他の地域とも連携して地元の経済を支えていきたい」と想いを語ってくれた。

紙漉きの郷で伝統技術を継承し未来へ繋ぐ

西細川地域おこし協力隊 ●津田 睦子さん

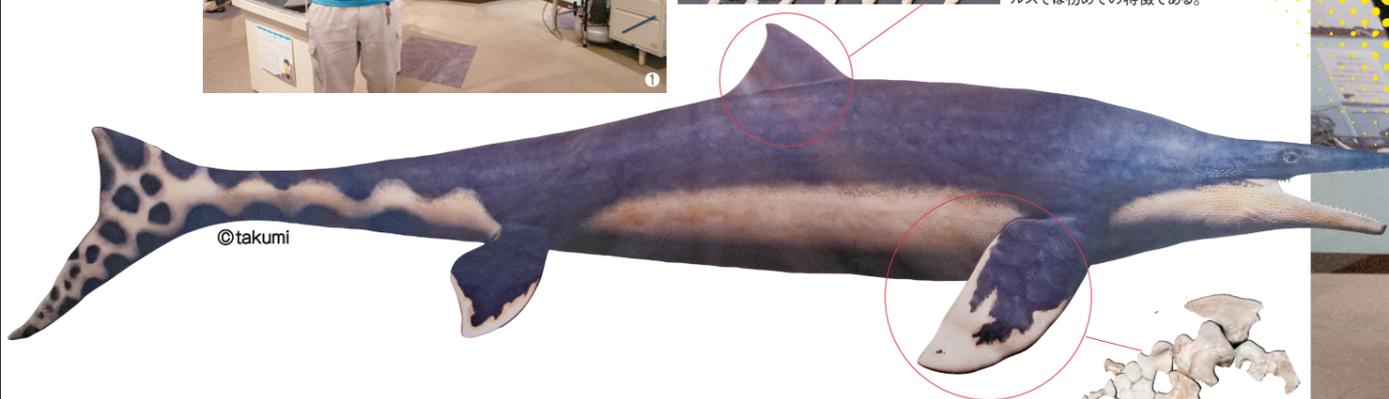
弘法大師空海が紙漉きの技法を伝えたことが始まりとされる「高野紙」。鎌倉時代初期には、高野山の麓にある「高野紙十郷」と呼ばれる里で漉かれた和紙が、経典や写経用の紙に使用され、高野山の寺院を支えてきた。時代の変化とともに、障子紙や傘紙として重宝されてきたものの、徐々に需要が減り、平成に入ると後継者が途絶えてしまうことに。そんな中「伝統の紙漉きで地域を元気にしたい」と声を上げたのが、高野町西細川地区に移住した津田睦子さんだ。

津田さんは橋本市出身。高校卒業後、大阪の大学に進み、卒業後はグラフィックデザイナーとなり、和雑貨を取り扱うショップを経営していた。多忙な日々を送っていた矢先、母親の介護で大阪と和歌山を行き来する生活になり、2021年にUターンを決意。「この時、地元で紙漉きの文化があることを知って、興味を持ちました。タイミングよく、地域おこし協力隊の募集があったので、技術を継承するだけでなく、この地域の産業として紙漉きを発展させたい」という熱い気持ちで応募しました。

任命後、まず行ったのが「ほそかわ通信」の発行だ。高野紙の歴史や地域の名所紹介、イベント告知など、執筆、デザイン、写真撮影と前職のスキルをフル活用して取り組んだ。また、リースなどアイテムの制作にも着手。様々な活動を展開するうちに、近隣に住む方も集まるようになり、自



①化石の発掘には苦労したと話す小原さん。道の整備から始まり、硬い岩盤を重機で叩き、割れて発掘された骨格に番号を振り…。クリーニング方法も試行錯誤し、発見から約10年をかけて全身の骨格が明らかになったという。②脊柱を支える椎骨の棘突起の一部が前方へ曲がっていることから、この個体には背ヒレがあった可能性が高く、モササウルスでは初めての特徴である。



©takumi

和歌山県立自然博物館
住所／海南市船尾370-1
電話／073-483-1777



ワカヤマソウリュウの脚ヒレは頭骨よりも長く、前脚ヒレはプレーキや左右方向転換の他に、前進するための推進力を得る役割を担っていたと推定される。

当時から発掘やクリーニングを手がけてきた小原正顕さん。「モササウルス類としてはアジア初の全身骨格化石となるワカヤマソウリュウ。頭骨や大きな脚ヒレ、背ヒレが存在した可能性を示す椎骨の棘突起の傾きなど、他のモササウルスとは異なる特徴が多数あることに驚きました」とも語る。それらの特徴は、

独自の特徴が続々 ワカヤマソウリュウ

白亜紀後期、海の王者に君臨していたとされる大型爬虫類「モササウルス」。2006年に有田川町鳥屋城山で発掘されたその化石が、モササウルス類の新属新種であることが判明し、和歌山県立自然博物館では昨年12月、学名をメガプテリギウスウカヤマエンス、通称を「ワカヤマソウリュウ（和歌山滄竜）」として発表した。「調査段階で大腿骨周辺が繋がって発見されたことから、全身骨格産出の可能性も含めて本格調査を開始しました」と語るのは同館の学芸課長で、発見

も呼びかけ、様々な関連商品が発売されている。さらに、同町は古生物学者の荻野慎謙さんを地域プロジェクト「トマネージャー」に採用し、3Dプリンターを用いてワカヤマソウリュウの原寸模型を制作するなど、町おこしに取り組んでいる。世界でも稀なワカヤマソウリュウが、町の人々の誇りになればと、期待している。

観光や教育分野で 模型などを広く活用

ワカヤマソウリュウの発掘現場である有田川町を発信するため、同町観光協会は恐竜研究家で絵本作家のヒサクニヒコさんのデザインによるロゴマークを作成。町内事業者にも呼びかけ、様々な関連商品が発売されている。さらに、同町は古生物学者の荻野慎謙さんを地域プロジェクト「トマネージャー」に採用し、3Dプリンターを用いてワカヤマソウリュウの原寸模型を制作するなど、町おこしに取り組んでいる。世界でも稀なワカヤマソウリュウが、町の人々の誇りになればと、期待している。



有田川町
住所／有田川町中井原136-2
電話／0737-52-2111



有田川町観光協会

ワカヤマソウリュウのロゴマーク。背中の模様にはWAKAYAMAの文字が隠されている。有田川町ではお土産に使用するなど、町おこしに活用している。



well-being 和歌山

【ワカヤマソウリュウ】



ワカヤマソウリュウで 地域の魅力を発信。

みんなが健康的で幸せな状態であるウェルビーイングは、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた和歌山そのもの。そんな和歌山で生まれた「ウェルビーイング」をご紹介します。

約7200万年前の地層から見つかった、全身約6mのワカヤマソウリュウの化石。これまでモササウルス類は30属80種類以上の化石が発見されているが、尾部を除くほぼ全身が残っている標本は世界的にも貴重。頭骨を見ると眼窩付近が左右に広がっており、両目を使って物を立体的に見ることができたのではといわれている。

わかやま vol.02 食の新発見



なんたん蜜姫の生産者・堤和之(左)さんと、収穫を手伝う奈良県出身の板谷明子(右)さん。2023年の地域の総生産量は、約6トン。その中でもA品に選ばれるのは、わずか1トン程。直売所やインターネットで販売され、ペーストは地域の菓子店などのスイーツにも利用されている。

JA紀南串本支所
住所/串本町串本1735-121
電話/0735-62-3980



串本の太陽と潮風が育む

なんたん蜜姫

本州最南端 串本町で栽培されているサツマイモ“なんたん蜜姫”。ねっとりとした食感が特徴で、鮮やかな黄色の果肉には濃厚な甘さがあり、その希少性から幻のサツマイモとも呼ばれている。

温暖な気候とミネラルたっぷりの潮風に恵まれ、サツマイモ栽培に適した土地である串本。そんな土地で育つ上質なサツマイモの中でも特に甘みのあるものを、古くから「サイパンイモ」という愛称でよび、地域の人々から親しまれてきた。2009年、そんなサイパンイモを町の特産にするため、「串本さつまいも会」が結成され、最も良質な品種を「なんたん蜜姫」として展開。以降、串本の実産者たちは、鳥獣被害や高齢化などさまざまな課題と立ち向かいながら、丹精込めて育てるなんたん蜜姫を県内外のファンの元へ届けている。



「表面に傷をつけないようにイモを掘り出すのにコツがいるんですよ」と堤さん。苗一株になるイモは大小10個ほど。収穫後はすぐに出荷するのではなく、約1カ月ほど貯蔵し、じっくり熟成させることで糖度が増すという。

おすすめの食べ方は焼き芋。干し芋にしても甘い。熱が入るとねっとりとした食感になり、クリーミーで甘さも引き立つ。販売は11～12月の季節限定。

